花外集

全

奇白河晩成老人ハ大塚所岡の
長農くてみうらし時ら潤然
のことよ志源くゆ〻〻源の出ハ
を聞きて他諸の経と相しよ
たちまち門葉麻のごとくう
そちて天文一郡に源の物と

ありしかばまことに世の
へ一方の長国公の年也て
遠とのの家僕よ来てあそひて
そこに菜の穴よ切こるとさこそ
早くも巨魁を辞して蓮国を
拒しらしめ武として其らる
屈いなくあんの死をとけ

海底に死なるへきかくるなるかか
くもてそこ保こそ年の月病死
こそこの志菜ふ必ずこそへ
蓮国よりかくて為物を賞と
こそひて原何を集て梓よ
のせんこれなのれ菜白元の
同こあることとてもんを和を

とふらさ緒と偏柏とある庵に
ひとまついかむといへるゆるされ
清のまゝにあそびましと置あき
竹のみすてをかれたまひつ

粟島
守斎

俳諧追善集　志蘭編

一周忌

夏すゝきかしこしや花も見すたりけり　宗紀ち

蝉啼てる野の露　志榮

朝暦乃烟りもとこしえにあるよ　古翠

耳澄も聲もありてもなき月　正令

家中の秋立れし夜の冷さ　山水

迷ひてかしこ廣お撲墳　乙蝶

二条殿内裏へ川ゟ向き　恕雲
ちやうと見れいちやうと見る　珂洲
みさごの姫孫もさらなる　雲風
能一面ゟ清き汀癒　雪山
浪人も待ちて松樹賓客　玉之
紅葉ばるゝ　状　古塘
ちさうと雪折ゟ被里　圭齊
本能屋の裏ゟ相原ニ眺　仙耳

ぬれぬれしもけいすゐ白ゟ霜む　花旭
原の雲さとを垂て糸行　乙負
いさゝゝと入垂見月の光り深　宇喬
萩とすきの子かる風もゝ　飄露
秋雲ゝゝもかゝさもゝゝる　桃々
ゝ後ゝは行の咲へる家居　冬色
井戸端ゟ高ゝく伸ふ蕗蒻　戈比
みさゝむさてゝ雲行ゝ　圭路

里方所沼まてと　華月亭　再拂坊

ゆくとしの年の竹ぬひたる　松良

宿替乃はなは妖とゝひまして　忘睡

如き竹をは　径乃上　芦兄

雪蕉を振ひたる竹愛哉　呂竹

四山之方所沼ともゆ　金了

一ト点きり月の氣中を鳴　太橋

とき鳴ゝ鳴る　蘭　涼々

鶴よ横笛乃つる　鶴　東白

鶴と露のあるゆるの戸　松左

打たゝゝ　如流

麻苔のゝ清の絵きく　杉谷

柱ゝ花ハ所ゝとゝりみゝ　不找

石をめくりてゝ耳る水　枕筆

奇雨曉花

雲とも霧とも吹くるを井川
柏木もうるこにうとうすめ
竹を書して葉の写を面白き
もみぢ紅の色深むは柏かな
ちるもつれなくつるるは秋の風
稲妻の深へ出るる柏哉
月一つ深き色の世川哉

深乃寺にて多に深かや稲の穂

居士同息女一人と混雜

廣大なるにて深れる涅槃像　乙二
鶴岡八幡十五日　々
蝶しくも年へて累ハあるうらう　長琴
山の雪ちるうらう高きあるう　々
さしてい春のしるべ高き後素八　士朗

元やとて鈴虫の声垣根うち　士朗

蓮の葉のくさいへハ花さかり　道彦

鈴虫やそこらの草の中　々

秋空や中国の月　月居

さらさらと月　花すかしていく秋さら　々

ぬくもりとロ言うちこ　作京　成美

新米や豫章もかるくほさり　々

うら枝うら風尾をくくる塩小　外二

さらさらと風やあるあるの人を吹　々

足へ足の三つの人やそのの宿　菖三

短冊や蓮ケ池のおの葉一書　々

雲の昼　仏ありおそかりる　巣北

いくつもの花の風さ　々

岩川　百ようもたもたもたもたもた　樗屯

皆ての人の中うう　秋の風　々

文衣　紋よ孫敬を　ふつかうう　蕉雨

[illegible]や一部又[illegible]八ツの上　蕉雨
[illegible]やのさいうしやまの色　左節
[illegible]や[illegible]川　東　々
[illegible]しくるる枝蛙し[illegible]の花　且ゝ
[illegible]ゝあゝ[illegible]とあるぬ[illegible]の[illegible]　々
神います[illegible]あゝ[illegible]の[illegible]　宇考
あふあけなるえや雛の切さゝ　々
あるゝゝゝ[illegible]て[illegible]の月又[illegible]　左午

[illegible]や[illegible]ゝ[illegible]る[illegible]　々
[illegible]の[illegible]や[illegible]月[illegible]の[illegible]　水山
[illegible]あや[illegible]の[illegible]の月　々
石月や[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]　松硯
[illegible]月や[illegible]の乾く[illegible]門　々
[illegible]又の[illegible]暮よゝ人の
白を[illegible]て[illegible]
花の[illegible]て[illegible]る[illegible]ゝ東　志[illegible]

四時雜

枝よりとそてつたやまの月　蒼虬
花ちる木の高くあるやまの春　一具
ゆくへ知てはるかなる陸自ふ　碓嶺
ゆくすゑ言れて旅の茶のむ　宇喬
三日月ほのぐらくもかゝる　不找
秋の夜の新よさいとゝ名ぬふ　古橋
名残く雪の新ゆ鶴ゆへりう　之仙

夏のあひ日おかし　山水
かゝる風やうゝ松すゝ蛍きり　玉芝
雪の新ゝとせるまとゝ雲ゝ　大物
服の松乃なつ松りの月　古翠
月の新ゝ霧乃中くゝの内　一甫
松風やゝゝゝとゝ雲　縮丸
新とかけてゆるの御ゝ秋幻　雪山
風呂ゝ新て一ト日ひき新む　卓池

手仙の指さしたまくとき雪の
花てまてを望ちいて指さしたる
湯あらしかりくとする窓小
雪のたまり少かくまつたんら
引ばてあるを流れ月り辻角カ
塔の綱をたるの窓の光
をけをまておるるるの物盛
かりの波濤等や月のせき
あるの

久殿
日人
宇宙
斗玉
二丘
桃々
常宣
あるの

折るるあれいかたまさくらの
梅折るを也とや折折る　紅
泡てつとのうしてやは花の実
海人ゆと也とて屏風や陽の母
むとあるを宮とるとるあるの猫小
あるの月の宮守て破ふ彩風ふ
たるとしかもとの折ふ梅うる
窠の修のとて家ふやあて言

きとめ
延雪
友立
孤窓
正令
素芯
宏子
左聖

市ゝの人ゝ
ゝ
大きくの
廉
愛
作
夜

蛍水
涼荻
玉之
斗六
涼谷
昇々
恋巣
禹走

冬色
芝溪
古橋
一有
鶴壺
茅路
一之
禾木

七夕
井戸
常世
常世
常世
常世
その

逢くやそくあれ物うえくくある　雨塘
ゐ月百や雪乃嶋一素畑　一甫
山ゐあ宝物集や くゑあくくゐ　乙嬢
御仏供　ほとゝぎす　乙炎
張ゐあくくゐ新宋ゐ　大物
くくゐ百くくくあるゐ　杏青
ゐ猫の新あくれて庵りり　玄子
一寸くくゐ物くくゐて小杉引　蒼虬

まつ物や物ゐくくゐ海の松　海美
若ゐあ物くゐ物や梅乃花　雄江
物て亜芳や新花也亜　志素
ゐくくゐと新くゐ物ゐ雪ゐあ　和生
夕ゐや毎あ新ゐくゐ笑　晋百
新ゐや庵ゐ雪ゐ亜くゐ寺　天盲
くゐ物新物口ゐ一梅の乙　素文
ゐひ入ゐやくくゐ雀や大徳ゐ　古城

月さえも用ありきと十三夜　一々

猿引の紫ずきんあるを見て　無し

梅桜遅咲なれば　一茶

振袖あるを見て一さう　似光

泥棒も久しぶりに稼ぎもせず　羽人

去仏にして星四郎師なる　花不

名月や西に向かふ男の物思ひ　多賀

あるまじき事なれども　木公

引かるる屋根へ出やれば　志げる

野路の月　可西

去年江の蓋とる野の月　青隼

梅の花　雄嶺

紅を吹あてなり梅とかるる　春之

小新宮の屋上や宵の月　如泉

月を立て見れば　乙矢

あるまじき夜も明るの星の光　芝雨

[illegible]枝[illegible]花　伯川
[illegible]　立丈
[illegible]　芳兄
[illegible]　白楊
[illegible]　白雪
[illegible]　珊瑚
[illegible]　重吉
[illegible]　大梅

[illegible]　右琴
[illegible]　井眉
[illegible]　林曹
[illegible]　金子
[illegible]　梅周
[illegible]　友之
[illegible]　二丘
[illegible]　如旭

[illegible]と梅や窮[illegible]花　稲洲

初春の[illegible]　蔡静

[illegible]の[illegible]　春波

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

大[illegible]　[illegible]　玉[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

一[illegible]　[illegible]　正令

畑中[illegible]　[illegible]　[illegible]人

[illegible]　[illegible]　柳百

[illegible]　[illegible]　[illegible]比

[illegible]　[illegible]　素芯

[illegible]　[illegible]　[illegible]雲

[illegible]　[illegible]　涼[illegible]

[illegible]人の地震[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]九

市人のまとゐする所 戎　竹堂
雪や汐の引くころ霧の中　民城
きく咲て空らぬ日くらし　東翠
菊ぞむ半ば過ぬ物の花　梅里
菜園の囲ひ深くもちつる　文秀
泥土をまとんまけらる秋空　山項
文ぬ新やいろは田舎の物ら　岩女
行宮ぬ新やわり其の文　衣　下毛　星谷

肌ぬくく人の集る清水哉　理測
新しき所物を宮めくら　川文
菜畑の中ゑ新しき家ぶ　一々
文ぬて毎ゑ人を病ふ　大物
ちの生ーえて其て立ち繕ふ　古峯
ゑと折くいふ伏ふ稲の花　三克
ゑの河の至府ゑ来る水　圭助
ち物和傾郷町ゑつくふ舟　可江

一京の四方のうしやうかたち　桂路
云つゝて写あらせたる山帰路　三條九
雪ふる修山又て所ゝ桜ちる　洲嶋
月の雪ふる候ちる紅葉　月考
八朔の旭ゝ蓮ゝ　眉山
夕ゝ雲や沢乃かゝらぬ金剛石　大振
正月の時ゝ公し梅の花　袁丈
星月夜なる月ゝ　雅路

とめ分ゝ雪ゝ　白竹
撫ものやしあい雨ゝ　葛紙
うつゝと梅ゝ桜ていかゝ世の白　吹雪
おとせて吹せて雪や時ゝ花　天山
ものゝ唐撫ゝ吸根や白　蓮素
除梅ゝ桜ゝ　源谷
吹花ゝ雲ゝ雪ゝ　卓池
梅の花桜ふむ　多あ

海鷗の海ゐる見やな　月　仙二
月　松やゐとかゝる霞ゐ　志省
とて分りゐ砂高の境やもゐの月　雲風
あゝの井ゐ海ゐゐる中菴の宮　一兆
山ゐや大豆お吉し物の中　杉峯
ゐゐなやゐゐて知て山路　烏虎
ゐゐて思ひ出ゐる思ひ　宇雲
鶴ゐの後やゐゐや秋ゐ人の日　桂九

京師ゐ京屋の中や冷ゐ　石鼎
つおを結ひおかく柳の日　竹歩
病の春雪の高ゐ中　蒼虬
月ゐゐみりけさ宮種の松ゐ原　越巣
芋茶やもゐれあゐゐ日の中　涼苔
月ゐて二ゐえゐゐきゐゐ　敷翠
ゐ猿のおやゐひゐ人て冷ゐ　雲母
元禄ゐて冷ゐ小菫ゐゐ　曽及

作ある潮乃わかや　花　宗九
枕さしを一つさしむやあかし　芝七
あかつきさいく鳥やれ中　志光
ゑしさしさしるおさしあるれ　梅史
柳かくえうけよりやあの花　斗玉
新島の時とえ志やあの宮　三十
さくえてさるのあるあの戒　雄嶺
月光とくまて解粉の邪　一七

二秋こ秋　筆新も　辨こ
ゑあとこれ　梅も　枕二
作梅や　カさしん　作蓮
ゑ新ゑ新と　秋ふかく餘武　潮堂
ゑさ新の　ゑ布屋の紅　文濤
新るの働こる　さくらるの　潮史
まの作の鄭　ゑる　後新の　後竹
ゑこの平鄭の近る　ゑる　月荘

[illegible]通[illegible]ものあり　梅の[illegible]　赤色
多奇麗なる銘酒の[illegible]　梅の花　相雨
[illegible]て猿の[illegible]　宇多
初一[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　貝石
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　玄子
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　鬼[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

稲荷[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　母来
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　子[illegible]
川中[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　源治
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　山水
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

連歌しゐ俳諧の句をいと
系ゝ[illegible]かゝやてのの月　等窓
家の人ゝあつて枝ゝ葉の葉　忘隆
中ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　[illegible]山
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　玉[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　東[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　[illegible]秋

りわ風[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　柳佳
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　桐一[illegible]　[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　つ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　之[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　如仙
旅人ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　[illegible]

かるるかれぬるともてあそぶ時　　再柳坊
蕭条と思うて出るもの　　松帝
枝ゆたかなる野の宵　　呂竹
雲もとまれかくりるもの成　　其山
家の中遠方て知て来る　　其水
ゆかしく菜ゆかしく二尺　　多賀
もちろん中毎の時のうしろ　　雅風
つれなかりうるもの宇鄙の　　源し

蕪の中さし向ていちうき　　右橘
名も枯るあるしタアの家高　　久臧
遊立て恭人乃アの時年　　時来
坊ゆかるの門田へ高る萩の蔵　　鄭賀
鄭の高うしかりし基の月　　坊天
高うて高うして鄭る芝邪　　文山
鈴ゆとあてみなる敢又うの　　文呂
拙きてはあけうや鄭の高うし　　来六

梅か香や庭ハ櫻も一下さかり　一肖

里人に行合ふや花戻り　正令

雛店町をもぬきてかすむ高殿　稲柱

え日に梅まうけゝり池の鳥　扉毬

一下まつのさわく潤て蛙の代　禺帆

常るや濡まて来て漆のいろ　蒼虬

名月や伊豫より海て夕のる　璥山

小まつりや加篤の尾図の堀聴り　宇鸞

松本にうつまつりうねをこれに　孤立

池疏子もをさせてかえしまる　逢石

綿畑かし樟蔭る人やらん　不枝

花に花一本にもいゝある夕れる　素忍

嘘の松まうことえて松のくさ　皷柑

人に母の飢て自をも荳うる　青容

川綿糸のよそうきさうまの客　雲外

折ら母のちひさゆきいよ高る杉池郎　久臧

ゆふちどりなれとうえし山の雪　行左
ふるさと行はた古郷ちるこの　徐来
淵さけて行方かすみて来る陽炎　一志
百姓の作田ちる九月雨　豊春
紅葉して来なしてあり烟うの軍　禾木
秋風や貴中ちかるる昼功祭　雪山
市の家のあるいよ宮祭月　梅屋
郭の鈴ふる宮ちる夜雨　秋春

さけうの紅葉を踏ふる小ちる　正令
徒むしちるる人や夢のあ　鶴松
行宮所のてちるとかふるの家の　久里
傘をちらへいのあるる雀　花狂
鳥ちて旅ふ暇の切ち宮居雨　馬布
蕭ちかるちる冷ちて義　成
濡ちちるに仕ちて切ち名残　松左
萩蕭を部ち行祝后の月　宗久
枕谷

書をみ集て版にうつす事の猶
粗めーを志かるゝ和尚や　たのうけ　江月
菓を始めて　なうらうなやきうの中　葩三
寒かるゝ　ほのぼのとうの日　和童
梅ちるよりはつかあくて花えぶ　抱儀
雪てかゝる　なうらうやる　庭菜ぶ　曰人
とゝかて　ふれの中や　ほう板　ほうる
ふる風や　雪ちるもさえぬ　風の波　荷了

猫　高ぶれ　音も　黄ばみ　ある　月　えぶ　東白
り　ぬを　ひ　ま　ま　ぬや　ゑ　ゑ　ゑる　花旭
風や　いつ　覚　ぶ　ぬ　ある　孤　賣　川除
ゑる　点や　人の　さ　ぬ　菜の　木ぶ　和邑
山寺や　凭の　所よ　葉　妨　を　菜村
月清ー　垣　種の　ゑ　さ　ぬ　ある　東義
と　紅　ゑ　け　と　山　ゑ　ん　ぬ　ぶ　次　もと
松木　乃　ゑ　妨　ぬ　霙　ゑ　ぶ　孤立

をしれハやまのけしきかな　可外

一枝ハ折るとなく鶯乃花　大盈

枯葉もとハめぬ君乃おくるかな　雨月

人形を乃付ぬ全く山さくら　古翠

法師よりなるるて

ちゐん寺とうち出ぬ秋　正令

此編集已成志蘭氏懷其冊子来乞
余之題辭披閲則栗齋主人序卷首
而盡其旨況余之不慣于華而拙于
菜有足於蛇則奪飲無角於雀則穿
屋何為贅之乎曰否蝦蟇浮水書真
出蚯蚓游泥寫草之彼猶見藻思今
於此舉也豈可無隻言半語之惠哉
曰唯〻呵〻於是乎臨玄淵而探隃

糜弄管城而下方絮夫迷父祖之志
者為孝也蓋此舉也出乎聽於無聲
視於無形之情則誰其謂非迷志乎
死者若有知則固可也若無知則亦
可也書之以為跋

櫻園咫雲

1